

現代哲学への挑戦（平成 23 年後期・通信課題の回答・私案）2011-11-16.

超多忙に日々が過ぎてゆく現代生活では、充実感もなく、ただ軽薄な情報に浸かりながら、人生が過ぎてゆき、やがて終わるように感じられます。必死に物の本質に思いをいたし、日常生活の向こうに、世界の真実を探しているつもりであっても、その行為自体が、ポストモダン状況の今、それで本当のことなのかは保証されるものではありません。真実を探すということ自体が近代の亡霊なのかもしれません。ポストモダンは人間性そのものが過去とは一別しています。混沌とした状況、あらゆることが分散した状況でしょうか。その中で、宇宙の中でのほんの芥子粒の一粒にしかすぎない人間が、なぜ自己の存在理由や、宇宙の成り立ちまでに思いをいたすのでしょうか。現代では、哲学するなんていう固有の行為自体が存在できない危機にあると思われます。哲学自体が、歴史の普遍的登記簿に収録されて、矮小化されて以来、世界のすべてを説明するものではなくなりました。哲学の復権などを今さら求めても始まりません。西洋由来の古来の哲学は、現代では情報科学の一部門でしかありません。（以上のことが本当に、言えるのだろうか。）

普遍的登記簿が、世界のすべてを説明するということが真実なののでしょうか。グローバル化ということに関しては、ヨーロッパの科学文明由来のアメリカ発信のネットの文化が地球を覆い、領域国家の垣根を無きものに変えつつあります。しかし、現代よりも前の歴史では、小さなヨーロッパ半島の外にも、古来の文化や思考の営みがありました。日本という島国の独特な優しい文化、中華という地域の精神文化、西洋から未開といわれたアフリカやネイティブ・アメリカンなどの営みの中にも、西洋的な哲学思想に劣らず優れた思考が存在すると思われるのです。現今の、現代中国における政治的実験に秘める発展的な可能性を認めても良いのではないか。日本は、明治の文明開化により西欧化してしまいましたが、何か今後の地球文明に寄与できることがあるのではないかと思われてなりません。ネット文化は、ヨーロッパ生まれながら、すべての文化を発信して地球文明に寄与できる可能性を秘めていると思われます。

地球の歴史の中で、日本列島において、2011年3月11日という一瞬に、その普遍的登記簿には書き込まれていなかった、もしくは、書き込まれていることが人間に自覚されていなかったことが発生しました。普遍的登記簿と言われるリストにも、確認されていないことが、未だ存在している可能性があるのです。最近、地球上の各所で起こっていることが、それを証明していると思われる。過去の歴史にあったこと、いつか来た道とは、違うものです。そのことを、人間に知らしめています。災害という面で見れば不幸でありましたが、現代の哲学する人間にとっての一つの救いであります。「想定外」という言葉は、真実であり、人間には未だ不明のことが存在すると云うことが分かりました。歴史的登記簿の先にも、未だ未明の混沌、ポストモダンの状況があることとなります。哲学自体が、ポストモダンの中にあると同時に、ポストモダン状況を含めた、普遍的登記簿そのものが、哲学で解明されなければならないのです。哲学と云う言葉に囚われず、真実を求めるといふ人間の「知への愛」の行為は、今後も続ける意味があると結論できると思われる。